

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9(2019))

氏名	末寄 雅美	職名	教授	学位	修士(教育学)(九州大学大学院1998年)
----	-------	----	----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
保育者養成教育	実習指導、環境遊び、体験学習など

研究課題
保育者養成における体験的な学びを通じた保育観・子ども観の育成ー環境遊びを中心として

担当授業科目
教育実習指導(通年) こども学基礎演習(通年) 保育原理(前期) 教育原理(前期) 生活の中の環境学(前期) 保育・教育実践演習(後期) 保育メディア演習(後期) 保育内容「環境」(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【保育原理】 保育に関わる基礎的な概念や子ども理解のベースとなる授業内容のため、学生にとって出来るだけ分かりやすく、かつ基本的事項を確実に身につけられるような工夫として、テーマ別のノートプリントを作成し、それをもとに授業を進行した。ノートを取る習慣をきちんと身につけるよう、ノートプリントは提出を求めるようにした。
授業科目名【教育原理】 17年の教育要領・保育指針改定により保育における幼児教育の意義づけや保育者としての新たな役割について、特に幼児教育の無償化や危機管理について等、保育をとりまく状況についてできるだけ新しい情報に基づいたものとなるよう、また学生が「教育」に対し日常的に興味関心を深められるような授業内容となるよう改善を行った。
授業科目名【保育内容「環境」】 授業に屋外での体験学習を積極的に取り入れ、学生の生活環境への関心を引き出せるようなアクティブ・ラーニングになるよう工夫した。 また、地域環境と保育活動について、ゲストティーチャー(到津の森公園、獣医師)を招き、園外保育の引率を想定した話をして頂いた。
授業科目名【保育メディア演習】 メディア環境について、学生の関心を高めるためにディベート形式での授業を行い、自身のメディア接触を元に、保育や子育て環境におけるメディアとの付き合い方について実体験から振り返る機会とした。より学生の理解が深まった。
授業科目名【教育実習指導】 「観察実習」「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」と段階的に行われる実習に対し、学生がそれぞれ課題意識を持ちながら臨めるような指導を行った。実習事後指導では一人一人の学生に対し面接を行い、また丁寧な日誌指導を行った。実習報告会の実施など、学生自身が自分の学びを客観的に振り返って後輩にプレゼンテーションする場を設けたりと主体的な学びになる工夫を行った。

特に「教材研究」として、一年次には手遊び、二年進級時にはペープサートなどの教材作成と実演、二年後期では現場で継続的に使用できる教材の作成と実演を行った。またモンテッソーリ教育については、「保育原理」の授業と関連させ、教材の部屋で実際に体験してみる工夫も行った。

授業科目名【教職実践演習】
 現場での保育実践を見越したアクティブラーニングの授業を行った。「模擬保育」ではクラス毎に二人一組で指導案作成と模擬保育の進行を行い、他の学生は子ども役・観察者となり実践後には意見交換を行う内容で、学生個々人の学びと実習経験が生きる授業となった。「実践に学ぶ」では、保育の実践記録を読み合い、意見交換を行った。「行事について」では、グループワークを行い園行事への理解を深めた。いずれも、学生が授業への参加意識が高まるような工夫を行っている。

授業科目名【こども学基礎演習】
 科目の主担当者となり2年目を迎えた。特に今年度は「認定絵本土」の資格取得のための指定講座を複数回設けた、絵本やおはなしの技術向上に向けた学習や「絵本専門士」として活動する外部講師や児童演劇を専門とする外部講師を招いた授業を行った。
 前期では、学生の子ども理解を深めるべく「遊び体験実習」と「アフターミーティング」を組み合わせた授業を行い、現場での実習体験と日頃学んでいる専門領域と関連付ける学習を実施した。この「遊び体験実習」は、非常に高い学習効果を生んだ。
 後期には「おはなし発表会」をマロリーホールで実施し、ゼミ毎に絵本を題材にした劇・ペープサートなどの発表を行うための準備、指導を行った。

授業科目名【こども学特別演習】
 2年次のゼミ活動の科目であり、体験学習や学外研修を中心に行った。科学への関心を深めるために身近な科学遊び、具体的には教育支援職員の援助で行った草木染め体験、ろうそくづくり、バスボムづくり、塩と氷の冷却現象を用いたアイス作りなどを行い、活動後には学科ブログに掲載することで学生の活動を情報発信できるよう工夫を行った。学外研修では、2019年6月には「到津の森公園」での園外保育を想定した体験学習、11月に北九州市「環境ミュージアム」での幼児向け研修引率体験を行った。2020年2月に長崎県小値賀町野崎島での宿泊野外学習を行う予定だったが、新型肺炎の流行対策として中止した。

授業科目名【生活の中の環境学】
 19年度から開講の一般教育科目。外部講師による授業、特に「NPO 法人北九州魚部」の協力を得て、北九州地区の生活環境への関心を高め、様々な分野の専門家による講義を行い、保育者として実践に活かせるような学習内容を積極的に取り入れた。北九州の自然環境について、水生生物や昆虫の生態について、里山の食の恵みとそれらを支える人々について、島の暮らしについて、「発酵」と自然と食について、幼児教育に活かせるネイチャーゲームなど生活環境や科学的関心を引き出す多岐に亘る内容で授業を行うことができた。履修者は少なかったが、学生同士の意見の交流が活発に行えるよう、授業内での対話を多く行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本保育学会		2013年5月～ 現在に至る
日本保育者養成教育学会		2017年3月～ 現在に至る
日本社会教育学会		1996年4月～ 現在に至る
日本生活体験学習学会	理事 (2004-2010年、2018年-)	1998年10月～ 現在に至る
九州教育学会	事務局幹事 (1996-1998年)	1996年4月～ 現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 1. 保育者養成課程の学生が持つ子どもの遊び環境への理解	共著	2019年7月	日本生活体験学習学会紀要 生活体験学習研究第19巻	① 保育者養成課程の学生が、遊びに関わる資質をどのように形成するのかを測定する尺度の作成とその信頼性を検証する論文である。保育活動に遊びを取り込み、援助者となる資質を問う尺度44項目を採取し、157名の学生を対象に調査を行い、主成分分析を行った結果16項目を抽出し、その信頼性を確認した。 ② 共著者 命婦恭子 ③ P.53-58
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
実習時における学生の困難事例についての検討—乳幼児との対応を中心に	一般社団法人 全国保育士養成協議会ブ ック研究助成 金	○脇信明 古林ゆり 金子幸 上原真幸 阿南寿美子 島田知和 末寄雅美 藤本朋美	150,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
八女市子ども子育て会議	委員、会長	2016年9月～現在に至る（2020年9月迄）
柳川市保育協会保育士会研修部会	助言講師	2006年4月～現在に至る
八女市子育て支援員講座	講師	2015年～現在に至る
福岡県保育士等キャリアアップ研修	幼児教育担当講師	2018年8月～現在に至る
筑後地区保育士会研修	講師	2020年2月
九州保育団体合同研究会	分科会運営委員	2018年8月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

<ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会 副委員長 2018年4月～2020年3月 ・人事委員会 副委員長 2018年4月～2020年3月 ・教員免許状更新講習「保育の質の向上と保育の専門性：保育における遊び環境について」講師 2019年8月22日 ・キリスト教保育連盟 西南女学院大学短期大学部保育科代議員・代表者 2018年4月～2020年3月 ・西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園 幼稚園運営委員 2018年4月～現在 ・オープンキャンパス 模擬授業担当「遊びが広げる子どもの世界」2019年8月18日 ・進学ガイダンス福岡県立響高校「幼い子どもの育ちを支えるー保育・幼児教育の仕事」講師、2019年7月12日 <p>他、学生募集のための高校訪問の実施等</p>
--